

教科	工業	科目名	インテリアエレメント生産	単位数	2
学科	インテリア科	学年	2 学年	履修区分	選択
使用教科書	インテリア エレメント 生産 海文堂				
副教材など					

### 1. 科目の目的

人が生活する空間（インテリア空間）にある物品や材料は様々な物質からできています。それらの素材から構成部材および完成品（家具・照明器具等）までのすべてをエレメントといいます。金属・木材・プラスチック等の素材の特性，加工の原理と方法，各種エレメントの生産技術・生産工程および，基礎的な管理方法を習得し，生活の質の向上に活用することを目的とします。具体的な目標として，下記に示す各種専門の資格試験のための基礎学力の確立を目指します。

- 1) インテリアコーディネーター (インテリア産業協会)
- 2) インテリア設計士 2級 (日本インテリア設計士協会)
- 3) 内装士 2級 (インテリアディコレーター) (日本設計士協会)
- 4) 住福祉環境コーディネーター (東京商工会議所)

### 2. 授業の内容と進め方

素材の性質や特徴を知るためには，実際に触って，実際に加工してみることが最良の方法です。身近な材料である木材においては，加工実習や製作実習と関連して授業を進めることにより，学習の効果を上げます。

### 3. 学習する上での留意点

木質材料，金属材料，プラスチック材料，テキスタイル，セラミック，ガラス，ほうろう，粘土焼成品，石材，皮革，紙など，どれをとっても身近なインテリア空間に見つけることができる材料です。できるだけ，目にすることができる製品を参考にし，材料見本を使って，実際に材料に触れることにより，素材の性質や特徴をより理解しやすいように配慮します。加工に使用する工具や道具はできるだけ実物に触れ，また，加工実習で実際に使用して理解を深めます。家具の構造においては「インテリア製図」や「インテリア実習」の学習と関連させ，知識と技術の習得に相乗効果が上がるように進めます。生産技術においては，機械を実際に動かして，その基本的な構造の理解を助け，安全な使用法を習得するよう留意します。

### 4. 課題等について

各単元において，ノートの提出および，小テストを行い，そこまでの内容理解度をチェックします。理解が不足していれば補習・再テストを繰り返します。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	身近なインテリア空間にあるエレメントの材質や構造に常に関心を持ち，疑問のあるエレメントについて調べたり，質問するなど，意欲的な学習活動を行っているか。ノートは適切に整理されているか。
思考・判断・表現	インテリアエレメントについての基本的な知識を活用し，生活空間の性能を高めるために適切なエレメントを選択することができるか。
技能	加工用具・工具の正しく安全な使用技術を見に着けているか。適切なエレメントを使用したインテリアを提案することができるか。
知識・理解	インテリア計画に必要なエレメントの素材や構成材について基礎的・基本的な知識が身についているか。安全で性能の高い，快適なインテリアを計画するために，適切なエレメントを活用したインテリア空間プランを提案しわかりやすく表現ができるか。

### 6. 評価の方法

評価については，次のものを総合的に判断します。

- 1) 定期考査の結果による，学習の内容の理解度，および定着度。
- 2) 授業への取り組み（発表・学習活動への熱意・意欲・態度・出席状況）。
- 3) 授業時のノートの整理状況。各単元の小テストおよび，課題の内容と提出状況。

《指導計画》 科目名 インテリアエレメント生産

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等	
一 学 期	4	1. 材料と加工	内装仕上材について、素材から一次加工された構成材までの、性質や特徴、加工の方法や技術・留意点、加工に使用する工具やジグ、製品の規格や種類等について学習し、「適材適所」を生かした、性能の高い、快適なインテリアを計画するための基礎的知識と技術を習得する。  内装仕上げ、および構成材の加工には接着が多用されている。接着の原理、および、接着剤の種類、接着力と作業性について学習し、用途にあった接着剤を使用する知識と技術を習得する。  家具には、使用目的に沿った機能と構造、美しい形態が要求される。建具には空間の遮断と開閉、かつ採光・換気の調整を行い、装飾的効果も必要である。また、テキスタイル製品、窓回り部品、壁装材料、照明器具それぞれに要求される機能と構造および加工方法を学習し、多様な形態や機能を持った製品をデザインし、製作する、あるいは、コーディネートするための基本的知識と技術を習得する。  工業製品の製造において、専用の加工機械を導入することにより、加工精度および、効率を飛躍的に向上させ、品質を安定させることができる。インテリアエレメントの中で、身近な木製家具、鋼製家具、照明器具などの生産工程において、使用される木材加工機械および、金属加工機械について、構造と機能、操作方法と手順、危険性と安全対策などのを学習し、工業製品製造における基礎的基本的技術を習得する。  生産形式には建築物のような受注生産と。家具や家電製品のような見込生産、および、住宅部品などのロット生産がある。それぞれの、生産計画、工程計画と管理、品質管理、安全・衛生管理および、システム化についての基本的な事項を学習する。また、最も身近な製品である家具の生産について、製作工程に沿った加工手順、生産の方式、工場における加工設備のレイアウトについて学習する。	行動観察 模擬テスト	
	5	1.1 木材と木質材料 1.2 金属材料 1.3 プラスチック材料 1.4 テキスタイル 1.5 セラミック 1.6 石材、皮革、紙、籐、竹 1.7 接着		中間考査 課題提出	
	6	2. インテリアエレメントの構造		期末考査 ノート検査	
	7	2.1 家具  2.2 建具			
	二 学 期	9		2.3 テキスタイル製品	中間考査 課題提出
		10		2.4 窓回り部品 2.5 壁装材料	
		11		2.6 照明器具	行動観察
12		3. 生産技術	模擬テスト 期末考査 ノート検査		
1		3.1 木材加工 3.2 金属加工	学年末考査 ノート検査		
三 学 期	1	4. 生産管理 4.1 生産管理の基礎			
	2	4.2 家具生産の工程			
3	5. エレメント生産の応用				

教科	工業	科目名	インテリア計画	単位数	2
学科	インテリア	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア計画 (文部科学省)				
副教材など					

### 1. 科目の目的

要求された空間に、人体寸法や物理的条件・心理的条件を踏まえながら、仕上げ、造作、家具、テキスタイル、照明器具、設備機器を組み合わせ、空間を計画することができる基礎的な知識とその知識を実際に活用する能力と技術を習得することを目的とする。

### 2. 授業の内容と進め方

造形の原理、環境条件、人間工学、寸法計画、インテリアエレメント、各種空間の計画を具体的な設計例や、身近な現象、データを用いて学習を進めていく。また現代社会において必要不可欠な、高齢社会に対応したユニバーサルデザイン、および環境に配慮した室内空間の計画を要所におこみ、具体例を提示し学習をおこなう。

### 3. 学習する上での留意点

講義のみの授業にならないよう、設計例、プリントやプロジェクターを使用し視覚的に理解を深める。また、実習や製図の内容に関連がある単元では、そのことについて詳しく説明をし、連携を取って学習を進めて行く。

### 4. 課題等について

- 1) 各単元において小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをする。理解がされていれば合格とし、理解が不足していれば補習・再テストを受け合格するまで繰り返す。
- 2) 長期休業中にレポートおよび課題プリントを与え、期限内に提出させ理解度のチェックをする。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評 価 規 準
関心・意欲・態度	身近な生活空間の諸事象に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいるか。
思考・判断・表現	インテリア計画に関する基本的な知識を身につけ、具体的な事象に対して適切に判断でき、創意工夫する能力を身につけているか。
技能	インテリア計画で学習した内容を実習や製図などで関連付け、要求された空間に、諸条件に沿った適切なプランニングをおこなうことができるか。
知識・理解	インテリア計画の基本的な技術を習得し、その意義や役割を理解し、提案されたプランを適切に評価することができるか。

### 6. 評価の方法

評価については、定期考査の成績や課題の提出状況を平常点として加え、総合的に判断する。

- 1) 定期考査および実力考査
- 2) 課題への取り組み
- 3) 授業への取り組み(出席状況・発表・意欲・ノートの内容)

《指導計画》 科目名 インテリア計画

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考查等)	学習のねらい	評価方法等	
一 学 期	4	4. インテリアと人間工学	人体寸法は空間や家具、機械等を設計する最も基本的なデータである。ここでは、人体寸法の概略値、姿勢、作業域、動作空間を取り上げ、姿勢の観察や動作分析を通して具体的に理解させ、家具・空間の設計に活用できるよう学習する。	行動観察 質疑応答 課題提出 中間考查	
		4.1 人間工学			
		4.2 人体寸法			
		4.3 動作・作業域・動作空間			
		4.4 インテリアへの応用			
	5	4.5 インテリアの安全			
		5. 寸法計画と規模計画		要求される空間の規模に応じた収納能力やサービス能力の決定方法から、プランニングの基本的な考えであるモジュラーコーディネーション、グリッドプランニングを設計例を交えながら学習する。	行動観察 質疑応答 課題提出
		5.1 空間の目的と計画			
		5.2 寸法計画			
		5.3 モジュラーコーディネーション			
	5.4 グリッドプランニング				
	7	5.5 配置と動線		空間に配置されるものすべてが「インテリアエレメント」に該当する。生活模様に変化により要求されるエレメントも変化しそれに対応できる能力が要求される。種類および分類を実製品や写真を用い理解を深め取扱いまで学習する。	小テスト 期末考查
6. インテリアエレメント					
二 学 期	9	6.1 インテリアエレメントの種類	住宅は最も快適さが問われる空間である。その快適性を提供する為に必要な寸法の計画から居室の配置構成までを様々な設計例を用い、高齢社会に対応したユニバーサルデザインを考慮した住宅の設計を踏まえ学習する。	行動観察 質疑応答 中間考查	
		6.2 インテリアエレメントの計画			
		7. 各種空間の計画			
		7.1 住宅			
	10	1 住宅の種類		オフィス空間には、時代のニーズと共に臨機応変に対応する空間が望まれる。時代の流れと共にどのようなオフィス空間を構成し提供しなければならぬかを、過去の事例から最先端のオフィスビルまでを例にとり学習する。	行動観察 質疑応答 課題提出
		2 住宅の計画			
		3 各室の機能			
		4 設計例			
	11	7.2 オフィス		商業施設では、利潤の為の施設が追求される。施設内の配置や陳列棚の陳列方法と人間心理や購買意欲との関係を学習する。	小テスト 期末考查
		1 オフィス空間の構成			
		2 空間の計画			
		3 設計例			
三 学 期	1	7.3 商業施設	学校施設では、教育制度の移り変わりにより要求される施設が変化している。過去の事例から現代の学校施設を例にとり学習する。	行動観察 質疑応答 小テスト	
		1 商業施設の種類の種類			
		2 空間の計画			
	2	3 設計例		図書館は情報を扱うだけの施設にとどまらず、地域のコミュニティとしてもその役割を担っている。設計例をとりあげながら、図書館の基本的な機能を学習する。	学年末考查
		7.4 その他の施設			
		1 学校			
3	2 図書館				

教科	工業	科目名	インテリア実習	単位数	3
学科	インテリア科	学年	2 学年	履修区分	必須
使用教科書	インテリアエレメント生産(文部科学省)				
副教材など					

### 1. 科目の目的

「インテリア計画」「インテリア装備」「インテリアエレメント生産」「デザイン技術」「デザイン史」等の科目に関連させ、要求条件にあった、性能の高い、快適なインテリアを創造するための基礎的・基本的な技術を、実際の作業を通して総合的に習得し、ものづくりの能力と技術および、態度を身に着けた実践的な技術者を育成することを目的とします。

### 2. 授業の内容と進め方

2・3年共に3班に別れ、12名～14名のグループで学習します。2年次は、「木材工芸」「フォトショップ」「パース」の3テーマで基本的技術を学習し、3年次では同じく「木材工芸」「CAD」「パース」の3テーマの応用技術を学習します。それぞれ3班編制のローテーションで進めます。「木材工芸」では2年次で小物家具製作、3年次で大物家具製作へと進み、製作工程に応じた加工技術や木工機械の操作を学習します。「フォトショップ」では2年次にAdobe社フォトショップCS4の基本的操作法を学習し、画像編集方法を学びます。3年次には「JWCAD」により、設計した住宅のインテリアデザインをプレゼンテーションする技術へと進みます。「パース」では2年次に1消点パース及び、2消点パースの作図法を学習し、各自がインテリアデザインをしたパースを描いて透明水彩で着色し仕上げます。3年次では、課題の必要条件を満たすインテリアを計画・デザインし、パースやコンセプトによりプレゼンテーションする技術を学習します。

### 3. 学習する上での留意点

他の科目との関連を重視して授業を進めます。「木材工芸」における刃物や木工機械の使用については、特に安全教育・環境整備に最大の留意が必要となります。

### 4. 課題等について

各工程ごとにレポートを提出します。家具作品、パース作品等の製作において授業時間で不足する分は課題とし、各自の自主学習によって完成させ期日までに提出することとします。その際、実習室の使用を認め、刃物や機械の使用については職員が付いて指導します。欠席者については、放課後等を利用し欠席した実習項目について補講をします。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	インテリアの表現技法および、作品製作等ものづくりに関心をもち、その習得に向けて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につけているかを評価します。
思考・判断・表現	基礎的な知識をもとに、実際にインテリアデザインを提案し、家具等の作品を製作するにあたって直面する諸問題について、その解決を目指して自ら思考を深め、判断できる力と創意工夫する能力を身につけているかを評価します。
技能	インテリアデザインに関する基礎的・基本的な技術を身につけ、安全や環境に配慮し、合理的な手順や工程を計画する技能を製作した作品の完成度から評価する。
知識・理解	インテリアデザインに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、人が快適に生活するインテリアの計画・設計を的確に表現し、実現させようとする目的を理解しているかを評価します。

### 6. 評価の方法

評価の観点に基づき、出席状況、提出作品の完成度および、自己評価を加味して総合的に判断し、評価します。

《指導計画》 科目名 インテリア実習

2 学年

3 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	実習オリエンテーション	1. 各実習の目的, 方法などについて, あらかじめ十分理解する。 2. 実習に安全な服装, 整理整頓と危険防止に留意する。 3. 積極的, 自主的に行動し, 共同作業はお互いによく協力するよう心がける 4. レポートおよび, 作品の提出は, 期限を厳守する。	教師による観察 報告書
	5	第1実習テーマ 「木材工芸」	インテリアデザインの基礎知識を基に, 機能性, 安全性, 審美製を備えた家具をデザインし, 合理的な加工工程表の作成法を学び, 安全で適切な加工技術を身につけ, 図面どおりの家具を製作する技術を習得する。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	6			
	7			
	9	第2実習テーマ 「パース」	パースの原理, 1 消点パース及び, 2 消点パースの作図法を学習し, 課題のインテリアをデザインして, 手描きによりインテリアパースを描いて, インテリアカラースキーム (室内の配色計画) を行い, カラーリング (着彩) する技術を習得する。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	10	第3実習テーマ 「フォトショップ」	デザインの基礎知識を基に, Adobe社フォトショップCS4を用いた, 画像編集方法を学び, ポスターやパンフレットなどの製作を行う。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度
	11			
12				
1	第3実習テーマ 「フォトショップ」	デザインの基礎知識を基に, Adobe社フォトショップCS4を用いた, 画像編集方法を学び, ポスターやパンフレットなどの製作を行う。	教師による観察 レポート 自己評価 作品完成度	
2				
3				

教科	工業	科目名	インテリア製図	単位数	2
学科	インテリア	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア製図(文部科学省)				
副教材など					

### 1. 科目の目的

家具や室内空間だけでなく、建築製図や工業製品における機械製図を、一年次で習得した三面図を理解し表現する力を生かし、実際の寸法を読み取り、手描きおよびCADを利用して、三面図それぞれの関係性を正しく理解し、図面を作成する能力と態度を育成する。

### 2. 授業の内容と進め方

1学期は、日本工業規格による寸法記号の記入方法や第三角法による三面図の作図など基本的な製図技術を学習し、「機械製図検定一次・二次試験」によりその習熟度を確認する。2、3学期は、木造住宅の平面図、立面図、断面図の作図により、「インテリア装備」で学習する木構造の理解を深める。また、jw-cadでの作図を通して、操作方法を習得する。

### 3. 学習する上での留意点

日本工業規格による寸法・記号の記入方法など基本的な製図技術を確実に習得させるために、模擬試験等を行ない個々の理解度を確認しながら、理解が不十分な生徒に対し個別指導を徹底する。

また、木造住宅の図面作成においては、インテリア・住宅の総合的な知識(寸法・構造・法規等)が問われるため、個々の進行状況を把握し個別指導を徹底することでただ模写するだけの図面にならぬよう留意し、「インテリア計画」「インテリア装備」などの他教科との連携を計る。

### 4. 課題等について

- ・機械製図検定前には朝補習を実施し、理解が不十分な生徒に対し、別途個別指導を行う
- ・提示した課題を提出期限までに提出させる。
- ・授業で不足する時間は自主学習とする。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	・インテリア・建築・機械製図について関心を持ち、作成に意欲的に取り組んでいるか。 ・自主学習に努力し、課題を遅滞なく提出しているか。
思考・判断・表現	・必要条件に基づいた作図を正確におこない、作業手順を考え表現できるか。
技能	・道具を正確に使い、丁寧に表現できるか。 ・CADのそれぞれのコマンドを理解し、効率よく図面作成ができるか。
知識・理解	・製図規約、エレメント記号、立体の投影図法等の知識が正確でよく理解しているか。 ・住宅の構造を理解し、正確に表現できるか。

### 6. 評価の方法

評価の観点に基づき、次の項目について総合的に判断し評価する。

- 1) 各課題の提出状況及びその内容(設計条件の理解・図面の完成度・丁寧さ)
- 2) 出席状況、学習意欲、学習態度、学習に取り組む態度を評価する。

学期	月	学習内容 (単元・考查等)	学習のねらい	評価方法等		
一 学 期	4	1. 図法 ア) 投影図 第三角法 イ) 立体的な図示法 等角投影法	図面に関する規格を理解して、家具・機械・器具などの図面を正しく読み、作成する能力を養えるようにする。 立面を平面上に正確にあらわす製図の基本的な技術を習得する。 図形のあらわし方を、第三角法を主体に解説。  製作図として図面に記入する必要な事項を習得させ、製作図の作製の基礎知識を習得する。 jww_CADの基本操作をマスターし、CAD検定全員合格を目指す。  (朝補習を行う)	行動観察 模擬テスト		
	5	ウ) 断面図法			課題提出	
	6	2. 製図の規約 ア) 寸法記入方法 イ) 仕上げ記号・ネジ・歯車の表現		課題の完成		
		3 「jww_CAD」の基本操作 ア) マウス・コマンド・メニュー イ) 基本設定(縮尺・用紙の設定) ウ) レイヤーグループの操作 エ) 寸法・文字				
		7 初級 CAD検定(全国工業高等学校長協会) ○過去の問題 ○筆記問題 ○模擬問題			CAD検定試験	
	二 学 期	9		4 住宅の設計の基礎 ア) 壁と開口部の製図	「インテリア装備」で学習した木造の在来工法を各部の寸法や構造を確認しながらCADを使用して学習する。  各部の寸法や構造を理解しながらCADを使用し縮尺に応じた表現力を身につける。 基本的な構造の理解度を確認すると共に詳細図を作成させ木構造について理解させる。	1学期評価
		10		4-1 木造壁(大壁・真壁) スケール 1:10		
4-2 アルミサッシ スケール 1:10						
11		4-3 ドア                 スケール 1: 5	課題の完成			
		4-4 和風開口部         スケール 1:30				
		イ) 平面詳細図				
12		4-5 木造平面詳細図 スケール 1:30	課題の完成			
	4-6 断面詳細図(矩計図) スケール 1:30					
	4-7 スケッチの製図化(s:1/50) ○平面図 ○断面図 ○展開図	作品の完成度				
三 学 期	2                 ○側面図(南・西) ○屋根伏せ図		総合評価			
	3					



教科	工業	科目名	インテリア装備	単位数	2
学科	インテリア科	学年	2 学年	履修区分	必修
使用教科書	インテリア装備(東京電機大学出版局)				
副教材など					

### 1. 科目の目的

インテリア装備に関係する建築の構造、各種仕上げ材や設備機器、家具、照明器具などのインテリアを構成する各部位や材料、構造、施工に関する知識と技術を総合的に習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。

### 2. 授業の内容と進め方

建築構造、設備、インテリアの構造と施工、インテリアの材料の種類と性質、インテリアの工業化、インテリアの維持保全、法規の内容を、建築現場の見学や電子黒板やプリント、実物を活用し具体的に理解をさせる。

### 3. 学習する上での留意点

講義のみの授業にならないよう、電子黒板やプリントなどを活用し視覚的に理解を深める。また、エレメント生産や計画の内容に関連がある単元では、連携をとって学習を進め、それぞれが関連している学習であることを理解させる。

### 4. 課題等について

- 1) 各単元において、小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをする。理解がされていれば合格とし、理解不足の場合は補習、再テストを受け合格するまで繰り返す。提示した課題を提出期限までに提出させる。
- 2) 長期休業中にレポートおよび課題プリントを与え、理解度のチェックをおこなう。

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	インテリア装備の基礎的・基本的な内容を理解し、意欲的に授業に参加し、質問・発表等をする態度を身に付ける。
思考・判断・表現	インテリア装備の基礎的・基本的な知識で具体的な事象に対して深く考えたとともに、各構造・材料について内容を適切に理解できる能力を身に付ける。
技能	インテリア装備の基礎的・基本的知識を活用し、実習の木材工芸や製図などの科目で、実践的に具現化できる能力を身に付ける。
知識・理解	インテリア装備の基礎的・基本的学習内容を理解し、各種構造・各種材料・各種仕上げ等に関する基礎・基本的な知識と技術を身に付け、インテリアの内容や、建築の内容を理解し活用できるようにする。

### 6. 評価の方法

評価については、定期考査の成績や課題の提出状況を平常点として加え、総合的に判断する。

- 1) 定期考査および実力考査
- 2) 課題への取り組み
- 3) 授業への取り組み(出席状況・発表・意欲・ノートの内容)

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1. インテリア装備の概要 ア) インテリア装備の内容とそのねらい イ) インテリアに要求される性能	インテリアに要求される性能(耐久性・機能性・快適性)について理解出来る。	行動観察 模擬テスト
	5	2. 建築の構造 ア) 構造技術の発達 構造の種類と構成 イ) 木構造 地業と基礎 軸組み 床組み	歴史的に建築構造の発展を理解させ、各国の歴史的構造を理解させる。  日本の木造建築技術を紹介しながら、軸組み工法の基本的構造を理解させる。	中間考査 課題提出
	6	ウ) 鉄骨構造 鋼材の接合 基礎・骨組	本学科では認識の薄い鉄鋼についての基礎知識を高め鉄骨構造の基礎的構造について理解させる。	期末考査 ノート検査
	7	エ) 鉄筋コンクリート 鉄筋コンクリート構造の特徴 材料と施工 防水	鉄筋とコンクリートの性質を理解させその構造の基礎を理解させる。	
	9	オ) その他の構造 補強コンクリートブロック造 工業化工法	工業化による住宅建築の実態を理解させ、日本の在来工法との違いとそのしくみについて理解させる。	中間考査 課題提出
	10	3. 建築設備 ア) 建築設備の概要と役割 設備の種類と建物との関連	現在の住宅における設備機器の重要性を理解し、インテリア設備を計画し施工するために必要となる、給排水・衛生設備・空気調和設備及びその他の設備について取り扱い、基礎的な知識と技術を習得させる。	行動観察
	11	イ) 各種設備と設備機器 給排水・衛生設備 冷暖房と空気調和設備		模擬テスト 期末考査 ノート検査
12	4. インテリアの施工法 ア) 施工の概要	床・壁・天井などの下地と仕上げ、開口部・階段及び造作について取り扱い、インテリアの構造と施工に関する基礎的な知識と技術を習得させる。		
三 学 期	1	イ) 床の下地と仕上げ		
	2	ウ) 壁の下地と仕上げ エ) 造作	「インテリア実習」や「インテリア製図との関連を図り、理解を深める。」	学年末考査 ノート検査
	3	オ) 天井の下地と仕上げ	工事進行に伴う業務について理解させる。	
	カ) 開口部			
	キ) 階段	難関のまとめを行い次年度の学習につなげる。		

教科	工業	科目名	住環境デザイン	単位数	2
学科	インテリア	学年	2 学年	履修区分	選択
使用教科書	色彩検定 公式テキスト2級(発行:株式会社A・P・T企画)				
副教材など	新配色カード199a(日本色研事業株式会社)				

### 1. 科目の目的

住環境を計画する際、視覚からの情報が多きな役割を果たすが、特に色を与える心理的効果は大きい。快適な住空間を計画するためには、「色彩」を論理的に理解しておくことが重要である。2年次では光の性質、眼の構造、色の表現など基礎的な知識を学び、次年度で学ぶ専門科目に発展することができる知識・能力を育てることを目的とする。

### 2. 授業の内容と進め方

教科書を理解させるだけでなく、光の性質や眼の構造などは、動画や写真などを利用し視覚的に理解させたり、配色に関しては配色カードを使用して実際に色を組み合わせながら、体験的に理解させるように授業を進めていく。

### 3. 学習する上での留意点

色の持つ様々な働き、基本的用語や概念、日常使われている基本的な色名やその由来、光とは何か、光と様々な色彩現象を身近な生活と関わりを持たせながら学習する。

また、色の表現や特性の理解を深めるために、プリント、写真、ビデオなどの視覚的教材を取り入れ理解を深めていく。

### 4. 課題等について

- 1)各単元において小テストを行い、そこまでの内容理解度のチェックをし、理解が不足していれば補習・再テストを繰り返す。
- 2)レポートおよび課題プリント

### 5. 成績評価規準(評価の観点及び趣旨)

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	身近な生活空間にある色のコーディネートに関心を持ち、進んでその色の働きや効果について調べ、得た情報について自分の考えを持ち、伝え合おうとしたか。
思考・判断・表現	色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境のコーディネート等の情報の基本的な知識や技術を活用し、思考・判断し、具体的な事象に対して深く考えとともに適切に判断しているか。
技能	色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境コーディネート等、の基礎的・基本的な技術を、新たな視点から応用発展的に捉え、実際に活用する能力と実践的な態度をもち、デザインや配色として具現化する能力を身につけているか。
知識・理解	色彩(色の本質・体系、色の見え方・感じ方、色の混色、配色)、ファッション、インテリア、環境のコーディネート等に関する基礎・基本的な知識と技術を身につけ、デザインや配色の意義や役割を理解し創意工夫する能力を身につけているか。

### 6. 評価の方法

- 評価については、定期考査・校内実力テストでの成績や課題の提出状況を平常点として加えて、総合的に判断する。
- 1)定期考査(授業計画にある通り1年間に5回実施される)定期考査の結果をもとに学習の内容の理解度、定着度を評価する。
  - 2)授業への取り組み(発表・学習活動への意欲・出席状況)学習意欲、学習態度、学習に取り組む姿勢を評価する。
  - 3)課題への取り組み

《指導計画》 科目名 住環境デザイン

2 学年

2 単位

学期	月	学習内容 (単元・考査等)	学習のねらい	評価方法等
一 学 期	4	1.生活と色 (1)身の回りの色の見え方	案内表示や店舗の看板など、身の周りには「色」を利用した視覚コミュニケーションが溢れている。見せたいもの、伝えたいことをいかに効果的に表示するか、その性質、配色の考え方を学ぶ。	行動観察 質疑応答
	5	2. 光と色 (1)光の性質と色	色はその物体を照らしている照明により、見え方が変化する。光の性質から色の見え方を理解する。	ノート
	6	(2)視覚系の構造と色	色や形を認識するためには視がないと認識することができない。ここでは眼が色を認識するまでの過程や構造、視細胞、眼の特性について理解する。	中間考査 課題
	7	(3)照明の表し方  (4)ランプの種類	色は照明の種類により変化する。各照明の種類や色温度や照度の違いを理解する。  各照明の特徴と、具体的にどのような空間で利用するか、具体例を参考にしながら学習する。	ノート 期末考査 課題
二 学 期	9	3. 色の表示 (1)マンセル表色系	マンセル表色系の特徴や、色を表示する際の表示方法を学ぶ。	行動観察 質疑応答 ノート
	10	(2)色名	JISの系統色名の表示方法について、理解する。	中間考査 課題
	11	4. 色彩調和 (1)色彩調和	配色の調和について、その原理を理解する。	行動観察 質疑応答 課題
	12	(2)自然の秩序からの色彩調和  (3)自然から学ぶ配色	自然の中に存在する色の組み合わせから、「ナチュラルハーモニー」「コンプレックスハーモニー」の配色方法、考え方、実際の商品の配色例を学習する。 夕焼けや、霧がかかった風景から、「ドミナント効果」を実例を見ながら、理解する。	ノート
三 学 期	1	5. 配色イメージ (1)配色イメージ	空間や商品などの色を決定する際には、空間や商品をイメージする配色を選択する必要がある。ここでは、三属性とトーンから作り出す色のイメージを理解する。	ノート 期末考査 課題
	2	6. ビジュアル (1)ビジュアルデザインと色彩	ビジュアルデザインには、「グラフィックデザイン」「パッケージデザイン」「Webデザイン」「ディスプレイデザイン」「サインデザイン」があり、言葉や文字だけで表現するには限りがあり、その中で色が与える影響は大きい。それぞれの具体例から、ターゲットによる配色の考えなどを学習する	行動観察 質疑応答 課題
	3			ノート 期末考査 課題